

ソフト面を充実した 福祉サービスを

県と市が共同で整備する「秋田県北部老人福祉総合エリア」の建設事業がいよいよ本格化します。6年度には建設基本計画の策定、



7年度に基本設計、8年度に実施設計、9年度着工の予定で、現在事業が進められています。

エリア建設というハード面もさることながら、それと並行して考えなければならないことは、ソフト面の充実ということです。例えば、1人住まいになった高齢者に対して、毎日何らかの形で、近所ひいては地域の人たちから気遣いの「声」がかかる、「ケア」がかかるというように、地域ぐるみで福祉の問題を考えていくということが大切だと思います。

今後、エリア建設の基本理念である「保健医療と福祉の連携」ということを念頭におきながら高齢者対策を進めていきますが、市民のだれもが安心して高齢期を迎えられるような体制作りをしていく必要があると考えています。また、21世紀に予想される「超高齢化社会」に対応出来、福祉行政のモデルとして他に誇れるものにしていきたいと思っておりますので、いろいろご意見をお聞かせください。市民の皆さんのご意見を反映させ、大館に合った、特徴ある福祉行政を進めていきます。

小 畑 元

産直住宅促進で 秋田杉の需要拡大

11月2日、大館から乾燥秋田杉の建材を首都圏へ直送し、建築現場へ建築技能者などを派遣する「大館秋田杉産直システム事業協同組合」が設立されました。

産地直送住宅システムは、住宅建築の材料としての乾燥秋田杉を地元大館で製材、設計図に見合った製品に加工して首都圏の住宅建築現場に運び、大館の建築技能者を派遣して骨組みを行うものです。これにより、秋田杉の需用拡大と地元建築技能者の雇用の機会が拡大されます。また、杉の産地で住宅建築の材料の加工、組み立てを受け持つことにより、これまでの建築工期を大幅に短縮出来るメリットがあるほか、首都圏における建築技能者の労働力不足を解消することにもつながります。

市では秋田杉の需要の拡大によって、市の基幹産業の一つである林業の振興と雇用の創出を図るため、今年度「木材産直システム推進事業補助金」として二百二十万円で予算措置し、産直住宅協同組合設立を働きかけていました。協同組合を設立したのは、市内の木材関係会社等五社です。



忠犬ハチ公

71回目の誕生日

忠犬ハチ公の誕生日にあたる十一月十四日、JR大館駅前広場に立つハチ公の銅像前で、誕生会が開かれました。誕生会には、愛犬家など多数の市民が詰めかけ、ケーキカットや花束贈呈などでハチ公の誕生日を祝いました。

忠犬ハチ公は大正十二年、大子内斎藤義一宅で父・大子内号、母・胡麻号の間に生まれたオス犬です。東京帝国大学教授の上野英三郎博士に引き取られ、博士亡き後も博士を迎えに、十年間も渋谷駅へ通い続けて改札口前にじっと座っていた忠犬としてたくさんの人に愛されています。

大館駅前に忠犬ハチ公の銅像が建立されたのは、昭和十年。その後、第二次世界大戦中の金属回収令によって国に回収されました。現在大館駅前にあるハチ公の銅像は、大館駅を後にしたのち六十三

年ぶりにはく製となって生まれ故郷に帰ってくるハチ公を迎えるにあたって、昭和六十二年に松田芳雄氏が製作したものです。また、大館駅前広場には、ハチ公の若かりしころの姿をモデルにした「秋田犬群像」もあって、ハチ公の銅像と共に、秋田犬の街大館のシンボルとして多くの人に親しまれています。

誕生会では、市出身のシンガー・ソング・ライター因幡晃さんが作曲した「君のホームタウン」を富樫道雄さんがトランペットで演奏して開幕。城西小学校一年の山田悠くんと六歳の関口ことみさんが誕生ケーキにナイフを入れました。



また、城西小学校三年の佐々木千陽さんが「これから大館を見守ってください」と題する作文を朗読するなどしてハチ公の七十一回目の誕生日を祝いました。